

令和 7 年度 大学等と地域が連携して取り組む地域課題解決プロジェクト  
(ふるさとミライカレッジ)

長年培ってきた学びのフィールドを活かした  
人材還流プロジェクト

成果報告書

令和 8 年 3 月

島根県雲南市

# 目次

---

|                                                                                |    |
|--------------------------------------------------------------------------------|----|
| 1. プロジェクトの概要.....                                                              | 1  |
| 1.1 背景 .....                                                                   | 1  |
| 1.2 地域課題 .....                                                                 | 1  |
| 1.3 プロジェクト及びフィールドワークの内容 .....                                                  | 2  |
| 1.4 目標とする地域の成果 .....                                                           | 3  |
| 2. プロジェクトの具体的成果.....                                                           | 4  |
| 2.1 プロジェクトの成果サマリ.....                                                          | 4  |
| 2.1.1 ビジョンの共有.....                                                             | 4  |
| 2.1.2 主体形成.....                                                                | 4  |
| 2.1.3 ネットワーク形成 .....                                                           | 4  |
| 2.1.4 学び・改善のプロセス.....                                                          | 4  |
| 2.2 プロジェクトおよびフィールドワークの活動実績 .....                                               | 5  |
| 2.2.1 課題解決人材育成のための地域系高等教育機関との協働 .....                                          | 5  |
| 2.2.2 建築系高等教育機関と連携した建築ストックを活用した小さな拠点づくり<br>～木次本町通りエリアビジョンプロジェクト～ .....         | 8  |
| 2.2.3 建築系高等教育機関と連携した建築ストックを活用した小さな拠点づくり<br>～木次町三新塔地区天野館文化財登録に向けた調査プロジェクト～..... | 10 |
| 2.2.4 建築系高等教育機関と連携した建築ストックを活用した小さな拠点づくり<br>～建築三刀屋町古城地区生活文化継承プロジェクト～ .....      | 12 |
| 2.2.5 建築系高等教育機関と連携した建築ストックを活用した小さな拠点づくり<br>～阿用地域活性化プロジェクト～ .....               | 14 |
| 2.2.6 地域と若者が双方に学び合う持続可能なまちづくりに向けた高等教育機関との協<br>働(随時募集型) ～「えすこに暮らす」プロジェクト～ ..... | 16 |
| 2.2.7 地域と若者が双方に学び合う持続可能なまちづくりに向けた高等教育機関との協<br>働(随時募集型) ～「えすこに創る」プロジェクト～ .....  | 18 |
| 2.2.8 地域と若者が双方に学び合う持続可能なまちづくりに向けた高等教育機関との協<br>働(随時募集型) ～「えすこに育む」プロジェクト～ .....  | 20 |
| 2.3 地域の成果と今後の展開.....                                                           | 22 |
| 2.3.1 目標とする地域の成果に対する評価.....                                                    | 22 |
| 2.3.2 今後の展開 .....                                                              | 23 |

|                          |    |
|--------------------------|----|
| 3. プロジェクトの実施体制 .....     | 24 |
| 3.1 プロジェクト体制の全体像.....    | 24 |
| 3.2 プロジェクト体制内の役割 .....   | 24 |
| 4. スケジュール .....          | 29 |
| 5. プロジェクトを通じて得られた効果..... | 32 |
| 5.1 地域における効果.....        | 32 |
| 5.1.1 プロジェクト前後の変化.....   | 32 |
| 5.1.2 得られた示唆.....        | 32 |
| 5.2 自治体における効果 .....      | 32 |
| 5.2.1 プロジェクト前後の変化 .....  | 32 |
| 5.2.2 得られた示唆 .....       | 32 |
| 5.3 大学における効果 .....       | 32 |
| 5.3.1 プロジェクト前後の変化 .....  | 32 |
| 5.3.2 得られた示唆 .....       | 33 |
| 5.4 学生における効果 .....       | 33 |
| 5.4.1 プロジェクト前後の変化 .....  | 33 |
| 5.4.2 得られた示唆 .....       | 33 |

# 1. プロジェクトの概要

---

## 1.1 背景

本市は合併 20 年を迎えたが、当初より住民主体のまちづくりを進め、小さな拠点(本市では「地域自主組織」として活動を展開)を核に協働のまちづくりを進めるとともに、地域課題解決に向けた活動への住民参加や各プレーヤーの横連携を促進してきた。これにより、若者や女性によるソーシャルビジネスの起業や、地方に関心をもつ都市部企業と地域住民との協業による新事業創出など、多様なプレーヤーによる自発的な社会課題解決への取組みが生まれている。さらに、市内の初等教育、中等教育において、地域活動と連携しながら「キャリア教育」を積極的に推進し、子どもたちによるマイプロジェクトの実践も広がっている。

本市には高等教育機関がなく、大学進学による若者の流出が続いている。そこで、雲南市を学びのフィールドとして県内外の大学生に開放し、フィールドワークやインターンシップを通じて、市内のチャレンジャーや地域自主組織等と協働し地域課題を解決する人材育成事業「雲南コミュニティキャンパス(通称 U.C.C)」に9年前から取り組んでいる。過去 3 年間では、上智大学、慶応義塾大学、筑波大学などの首都圏の大学をはじめ全国各地の 36 大学から延べ 111 名の学生を受け入れている。(過去 9 年間では 128 大学 692 名の受入実績)多様な交流や実践が市内各地で展開され、UIターンに結びついた事例も生まれている。

このように各地域で大学連携によるフィールドワークや地域課題解決の活動に取り組んできたが、大学との連携において、地域に対して課題への本質的な成果を還元することに課題があったことから、本事業の活用により、大学の専門的な知見と学生の若い視点を取り入れ、質の高い地域課題解決実践を目指し、地域と大学の協働による「地域のにぎわい創出」と「還流人材の育成」をより活発化させる。

## 1.2 地域課題

人口減少・高齢化が進む中、住民同士のつながりの希薄化や様々な活動の担い手不足など地域を取り巻く環境は厳しさを増している。こうしたことから、本事業では、地域が抱える個別の課題の解決に、学生の視点と行動力を取り入れていく。

### ①地域のお祭りの担い手不足に関すること

お祭りの実行委員の高齢化が課題となっているが、新たな担い手の確保ができておらず、存続が難しくなっている。

### ②空き家問題と街中の空洞化に関すること

各地域の地域生活エリアおよび生産振興・交流促進ゾーンにおいて空き家が増加しており、維持管理が難しくなっている。一方で活用可能性の高い空き家もあるが、活用に向けた調査・分析ができていない。

### ③その他の地域課題に関すること(随時募集)

地域の抱える課題について、地域課題の分析や課題解決策の検討、課題解決に向けた事業が十分に実施できていない。

### 1.3 プロジェクト及びフィールドワークの内容

実施するすべてのプロジェクトにおいて、地域課題を深堀することで地域と学生との協働が地域課題の本質に迫るものを目指す。コーディネーターは、地域の抱える課題や理想とする状態をヒアリング・分析・整理しながら、地域課題の解決につながるプログラム策定を支援するとともに、大学に対してプログラムの実施時期や活動頻度、カリキュラムの目的など、異なる条件を考慮しながら、年間を通した有用なプログラムの実施機会を提供する。これにより、大学側の事務負担を軽減するとともに、学生が多様な主体とともに実践を積み上げながら「課題解決人材」へと育ち、プログラム終了後も地域との持続的な関係性をつくりだすことを目指す。これらを通じて、地域の活力維持と関係人口の拡大を図り、地域への人材還流を生み出していく。

上記を踏まえながら、以下の3つのプロジェクトを進める。

- プロジェクト① 課題解決人材育成のための地域系高等教育機関との協働

学生の活動拠点が位置する木次駅前の商店街エリアを中心として、地域住民や地域自主組織等と協働しながら、地域の賑わい創出に向けた提案・実践や、若者が還流する仕掛けづくりのための提案・実践を行う。地域住民との交流や対話を通じて課題を見つけ、その解決策を考え、実践する。

- プロジェクト② 建築系の高等教育機関と連携した建築ストックを活用した小さな拠点づくり

空き家の再生とこれを活用した賑わい創出に取り組む地域自主組織と協働し、建築系の学生が地域のリアルな現場で学びと実践を深めるプログラムを展開する。建築デザインを専門とする地域おこし協力隊がコーディネーターとして伴走し、地域の歴史文化の掘り起こしや地域住民との対話の中から新たな価値を見出し、地域と一緒につくり上げる。

- プロジェクト②-1

- ・木次駅前通りの賑わいづくりにおける空き家や通りを活用した企画・什器デザイン、運営

- プロジェクト②-2

- ・木次駅前通りの活性化の一環とした旅館建物の有形文化財登録に向けた調査及び現況図面の作成

- プロジェクト②-3

- ・雲南市三刀屋町一宮地区の空き家を活用した地域拠点施設の什器企画・製作

- プロジェクト②-4

- ・雲南市大東町阿用地区の住民と共同した地域内のランドスケープ計画の策定

- プロジェクト③ 地域と若者が双方に学び合う持続可能なまちづくりに向けた高等教育機関との協働

大学機関と地域自主組織等が連携した地域の課題解決に向けたプロジェクトを募集し、提案に基づいたプロジェクトの組成と実践をサポートする。本市では、多様なプレーヤーがお互いの分野を超えて共創する土壌が育まれており、こうした地域プレーヤーとの対話を通じて、学生が新しい視点で課題を捉え、その中から解決策につながる可能性を探索する実践型プログラムとして展開する。

今年度においては、第3次雲南市総合計画で掲げる「えすこな雲南市」実現のための3つの柱「暮らす」「育む」「創る」のそれぞれの分野に対し、課題やポテンシャルの可視化が十分でない事業について住民へのヒアリングを通じた調査・分析を行う。

- プロジェクト③-1 えすこに暮らす

- ・コミュニティガバナンスにおける過去 5 年間の成果と課題の調査、及びワークショップイベントの企画運営

- プロジェクト③-2 えすこに創る
  - ・地理的条件不利地域の観光資源のポテンシャルおよび課題の調査、観光施策の作成
- プロジェクト③-3 えすこに育む
  - ・人材流出における要因の調査・分析、及びワークショップイベントの企画運営

## 1.4 目標とする地域の成果

- プロジェクト① 課題解決人材育成のための地域系高等教育機関との協働
  - ・お祭りの担い手が 60～70 代であることから、学生たちが実行委員会に参加し若者目線でアイデアを提案することで、これまでにない発想で賑わい創出に向けた新たな企画を実施することができる。
  - ・学生の滞在拠点の環境整備や住民参加型のイベントの企画を通じて、学生の活動についての認知度向上や、学生と住民の交流促進を図る。
  - ・地域が学生の意見を柔軟に取り入れ、若者の受け入れに対して寛容になることで、地域に住む若者や女性・子育て世代も地域活動へ参画しやすい機運が醸成される。
- プロジェクト② 建築系の高等教育機関と連携した建築ストックを活用した小さな拠点づくり
  - ・雲南市内で発生する空き家課題に対し、建築系学生の特技を活かしたドローイングやものづくりにより、地域の潜在的なポテンシャルを可視化する。学生と地域との交流を通じ、地域での既往の取り組みが推進する。
- プロジェクト③ 地域と若者が双方に学び合う持続可能なまちづくりに向けた高等教育機関との協働
  - ・本市の第 3 次雲南市総合計画で掲げる「えすこな雲南市」実現のための3つの柱「暮らす」「育む」「創る」のそれぞれの分野に対し、課題やポテンシャルの可視化が十分でない事業について住民へのヒアリングを通じた調査・分析を行う。
  - ・地域住民の視点では難しかった活動に学生が着手することで、既存の取組をより推進していくきっかけとする。

## 2. プロジェクトの具体的成果

---

### 2.1 プロジェクトの成果サマリ

#### 2.1.1 ビジョンの共有

プロジェクト①「課題解決人材育成のための地域系高等教育機関との協働」では、地域の祭りの企画から運営に学生が加わることで、若者を巻き込んだ地域行事の運営手法について、地域がビジョンを持つことができた。

プロジェクト②「建築系の高等教育機関と連携した建築ストックを活用した小さな拠点づくり」では、学生の活動をきっかけとして、多様な主体による地域ビジョンについての議論が活発になった。

プロジェクト③「地域と若者が双方に学び合う持続可能なまちづくりに向けた高等教育機関との協働」は、「えすこな(ちょうどいい)雲南市」実現のための3つの柱「暮らす」「育む」「創る」のそれぞれの分野について、学生の住民インタビューにより個別具体的な課題やポテンシャルを洗い出した。その結果をもって地域と学生で対話を重ねることで、3つの柱それぞれにおける地域・行政の行動指針を共有した。

#### 2.1.2 主体形成

学生の活動をきっかけとして、地域の活動に取り組む役割を担う主体が明確になった。特にプロジェクト②「建築系の高等教育機関と連携した建築ストックを活用した小さな拠点づくり」においては、市内の関係人口拠点整備に向けた多様な主体(地元企業、地域おこし協力隊、NPO 法人等)による協働体が形成された。

プロジェクト全体を通じて、学生が地域から地域課題解決を任されることにより使命感を抱き、自発的に考え、自分ごととして活動に取り組む学生が現れた。

#### 2.1.3 ネットワーク形成

すべてのプロジェクトにおいて、大学、地域自主組織、地元企業、社会起業家、中間支援組織、行政など多様な主体を巻き込んだプロジェクトを設計した。学生の課題解決に向け協力体制を構築することで、学生の提案が実現に向かいやすく、来年度以降も連携していく関係性を構築することができた。また、大学と地域の多様な主体との接点を計画することで、互いの地域への想いに共感する出会いが生まれ、大学と地域が主体的に関係性を構築しようとする動きも見られた。

#### 2.1.4 学び・改善のプロセス

事前学習において立てた仮説に基づいて、フィールドワークにおける住民インタビュー等を実施し、地域の実情や課題の構造を探ることで、「想像と現実のギャップ」を明らかにする体験を重視した。また、仮説と実態のギャップから得た視点を生かし、次の行動を学生自身が考え提案する過程において、学生は自ら考え判断する力や、臨機応変に対応する力を身に着けることができた。

## 2.2 プロジェクトおよびフィールドワークの活動実績

### 2.2.1 課題解決人材育成のための地域系高等教育機関との協働

#### (1) プロジェクトおよびフィールドワークの活動内容

##### 1) 目的

住民同士のつながりの希薄化や、地域活動の担い手不足が課題となっている地区をフィールドとし、学生が新たな担い手となる持続可能なコミュニティの形を検証することを目的とする。学生が地域祭事「秋の賑わい市」の企画・運営に参画し、高齢化した実行委員会および祭りの持続可能な運営体制構築に向けた実証実験を行うとともに、学生ならではの視点で地域住民と若者の双方向な交流を生む仕掛けを提案・実行することを目指す。

##### 2) 活動方法・内容

「秋の賑わい市」の実行委員会への参画と並行して、多世代の交流を生む自主企画を企画・開催する。

###### ①チーム A「雲南人生すごろく」

高校生や地域住民、雲南市へ移住した住民へのヒアリングに基づき、市内外での「暮らす・働く」を比較・疑似体験できる「雲南人生すごろく」を制作。

###### ②チーム B「おもちゃ冊子」

地域住民への聞き取りから得られた「子どもが自発的に遊べる体験」のニーズを汲み取り、身近な素材で作れる「手作りおもちゃ冊子」を製作、ワークショップを開催した。

###### ③チーム C「うみのいえ縁日」

滞在型交流拠点「うみのいえ」において、老若男女問わず誰もが参加しやすいイベントを企画・運営する。

|             |                            |
|-------------|----------------------------|
| 令和 7 年 7 月  | 滞在型交流拠点「うみのいえ」お披露目イベント運営補助 |
| 令和 7 年 9 月  | 高校文化祭への出店                  |
| 令和 7 年 10 月 | 秋の賑わい市開催                   |
| 令和 7 年 11 月 | 地域の文化祭運営補助                 |
| 令和 7 年 12 月 | 地域イベント(クラフトフェス)への出店        |

##### 3) 活動の工夫点

多世代の交流を創出するため、地域住民へのインタビュー調査を通じて地域ニーズを把握し、チームごとに独自の企画を実践した。

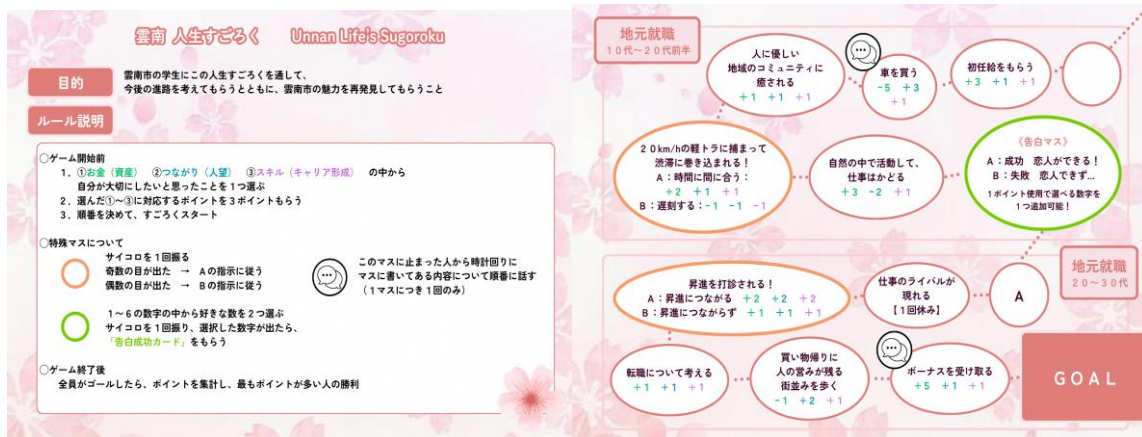
地区内で開催される他の祭りやイベント、高校の文化祭へも出展することで、地域住民との関係構築を図った。



## (2) プロジェクトおよびフィールドワークの活動結果

### ① チーム A「雲南人生すごろく」

すごろく作成過程における住民インタビュー調査や、秋の賑わい市や高校の文化祭等でのテストプレイ実施において、地域住民と交流を深めるとともに、地域教材としてのすごろくの精度を向上させた。すごろくは滞在型交流拠点に設置し、交流事業に活用していく。



### ② チーム B「おもちゃ冊子」

ワークショップには約 20 名の子どもたちが参加。地域自主組織に冊子を設置し、子どもが地域自主組織に来やすい環境づくりや、子どもを対象とした交流事業に活用される。



### ③ チーム C「うみのいえ縁日」

約 60 名の地域住民・若者が来場。多世代交流が活発化し、来場した地域住民から「自分たちでも多世代交流のイベントを開催したい」と要望があった。



### **(3) プロジェクトおよびフィールドワークの成果**

「秋の賑わい市」実行委員会に参加し、企画から運営まで参画することで、学生は地域イベントの準備から実現の過程を学ぶことができた。また、地域住民は若者を巻き込むことにより地域が賑わい、持続可能な体制を構築できることを実感することができた。

また、賑わい市への参画を契機に、一過性のボランティアに留まらない、地域自主組織と学生の「継続的な協力体制」を構築することへの機運が高まった。

## 2.2.2 建築系高等教育機関と連携した建築ストックを活用した小さな拠点づくり ～木次本町通りエリアビジョンプロジェクト～

### (1) プロジェクトおよびフィールドワークの活動内容

#### 1) 目的

木次駅前通りにおいては生産振興・交流促進ゾーンにおいて空き家や空き店舗が増加しているが、中心市街地として活性化が期待されている。地域のエリアビジョンを策定するにあたり、学生と連携して対象エリアの調査や協議体形成に向けての準備を行う。

#### 2) 活動方法・内容

学生のフィールドワークを通じて、対象エリアのポテンシャルの洗い出し、可視化を図る。また、先進事例のデスクリサーチを通じて、木次町本町通りにおけるベンチマークとなる事例を抽出し、その要因や構造を分析する

|               |                                                              |
|---------------|--------------------------------------------------------------|
| 令和7年 7 月      | キックオフ MTG 実施                                                 |
| 令和7年 9 月      | エリア内フィールドワーク(建物活用状況調査)<br>公開ワークショップ(エリアビジョン議論)               |
| 令和 7 年 9～12 月 | 隔週でオンラインミーティングを実施<br>エリアビジョン事例調査、エリプラとフォームロゴデザイン検討           |
| 令和 8 年 1 月    | エリア内のフィールドワーク(建物活用状況調査)<br>公開ワークショップ(エリアビジョン先進事例発表、ロゴデザイン発表) |
| 令和 8 年 2 月    | 建物利活用状況マッピングデータ化                                             |

#### 3) 活動の工夫点

定期的にオンラインミーティングを行うことで、コーディネーターや関係者と進捗状況を共有しながら準備を入念に行い、効果的に活動を進めることができた。

### (2) プロジェクトおよびフィールドワークの活動結果

- ・エリア内のフィールドワークを通じて、建物活用状況のマッピングを行い、物件状況の可視化を行うことができた。
- ・公開ワークショップを通じて、エリアビジョンの素案を作成し、対象エリアの課題やポテンシャルを整理できた。
- ・エリアビジョンの全国の先進事例のデスクリサーチを行い、公開ワークショップにて発表した。木次駅前通りにおいてベンチマークとなる事例を抽出し、次年度のエリアビジョン策定につながる下地を作ることができた。



### (3) プロジェクトおよびフィールドワークの成果

#### 【学生の視点】

- ・過疎化の進む地方における地域づくりの現場に触れることで、キャリアの選択肢が広がった。
- ・ワークショップや滞在を通じた住民や事業者との交流を通じ、学内で学んだ知見を実践の現場でどう活かすか、一般の方にとってわかりやすく伝えるかという視点が生まれ、行動変容をすることができた。

#### 【住民の視点】

- ・若者の視点、建築を学ぶ学生の視点でのアイデア出しに気づきがあった。こうした議論の場に継続的に若者が入ることで、地域に対する期待感が高まった。

## 2.2.3 建築系高等教育機関と連携した建築ストックを活用した小さな拠点づくり ～木次町三新塔地区天野館文化財登録に向けた調査プロジェクト～

### (1) プロジェクトおよびフィールドワークの活動内容

#### 1) 目的

木次駅前通りにおいては生産振興・交流促進ゾーンにおいて空き家や空き店舗が増加しているが、中心市街地として活性化が期待されている。

商店街の中にある旅館天野館の建物群は、商人の街として栄えた木次の文化的特徴を色濃く残す。建物所有者は有形文化財として建物を文化財登録する意向があるが、登録にあたり必要となる建物図面が存在せず、調査における財源や人手の確保が課題となっている。調査を経た文化財登録により、雲南市の観光の発展や地域住民の愛着の一層の向上を目指す。

#### 2) 活動方法・内容

・建物調査の過程における地域住民との交流や、地域に開かれた報告会を通じ、市民や地域住民の木次の街並みや木次の文化への理解向上を促す。

|              |                 |
|--------------|-----------------|
| 令和 7 年 6～8 月 | 予備調査の実施、調査計画の策定 |
| 令和 7 年 9 月   | 調査の実施(ヒアリング、実測) |
| 令和 7 年10～12月 | 図面の作成           |
| 令和 8 年 2 月   | 公開報告会の実施        |

#### 3) 活動の工夫点

定期的にオンラインミーティングを行うことで、コーディネーターや関係者と進捗状況を共有しながら準備を入念に行い、効果的に活動を進めることができた。

### (2) プロジェクトおよびフィールドワークの活動結果

- ・有形文化財登録に必要な図面を完成させることができた。
- ・地域に開かれた報告会を通じ、市民や地域住民の木次の街並みや木次の文化、建物の歴史的価値の理解向上を促した。



### (3) プロジェクトおよびフィールドワークの成果

#### 【学生の視点】

- ・授業で習った日本建築や図面作成を実践の中で触れることができた
- ・住民や事業者との交流を通じ、学内で学んだ知見を一般の方にどうわかりやすく伝えるかという視点が生まれ、発表内容や方法などを工夫するなど、行動変容をすることができた。

#### 【住民の視点】

- ・報告会を通じて歴史的な価値を知ることができ、市民の地元への愛着が高まる貴重な機会となった。
- ・地域の歴史文化を象徴する建物の価値が対外的にも評価されることで、雲南市の観光の発展や、三新塔エリアの地域づくりに対する期待感が高まった。

## 2.2.4 建築系高等教育機関と連携した建築ストックを活用した小さな拠点づくり ～建築三刀屋町古城地区生活文化継承プロジェクト～

### (1) プロジェクトおよびフィールドワークの活動内容

#### 1) 目的

市内各地域において、過疎化に伴い住宅や山林田畑の維持が困難となり、雲南地域の里山にあった生活文化が衰退してきている現状がある。三刀屋町古城地区においては、固有の生活文化を継承するための活動が地域自主組織や民間企業を中心に始まっている。

学生がこの既存の取組に加わり、ものづくりによる地域文化の可視化や地域文化体験拠点の環境整備による活動の活発化を図り、関係人口創出による持続可能な取り組みにつなげることを目指す。

#### 2) 活動方法・内容

・地域の拠点となる古民家の什器を製作することで学んだ技術を現場で生かすとともに、祭りの運営にも加わることで、地域の生活文化について理解を深める。

|              |                                                       |
|--------------|-------------------------------------------------------|
| 令和 7 年 6 月   | キックオフミーティング                                           |
| 令和 7 年 7 月   | 調査合宿                                                  |
| 令和 7 年 8－9 月 | 隔週でオンラインミーティング実施(次回訪問時計画)<br>日本建築学会学生設計競技(アイディアコンペ)参加 |
| 令和 7 年 9 月   | 製作合宿                                                  |
| 令和 7 年 10 月  | 隔週でオンラインミーティング実施(次回訪問時計画)                             |
| 令和 7 年 11 月  | 製作合宿、「夢牛祭」実行                                          |

#### 3) 活動の工夫点

定期的にオンラインミーティングを行うことで、コーディネーターや関係者と進捗状況を共有しながら準備を入念に行い、効果的に活動を進めることができた。

### (2) プロジェクトおよびフィールドワークの活動結果

・製作合宿を通じては、地域在住の元大工さんが、DIY 技術の学生指導や、より良い施工方法の検討を意欲的に受け持ち、学生と地域住民の協働が生まれた。

・古民家再生の現場を会場とした祭りの什器を作成してもらうことで、祭りの象徴的な空間を演出することができた。





### (3) プロジェクトおよびフィールドワークの成果

#### 【学生の視点】

- ・住民や事業者との交流を通じ、学内で学んだ工具の扱いや、デザイン、プレゼンテーションスキルを、現場で活かすことができた。
- ・古城地区を舞台にし、日本建築学会の学生設計競技(アイディアコンペ)に参加をした。
- ・プロジェクトの過程で、大学間の繋がりで、雲南古城地区での活動を通じて繋がった芝浦工業大学の山代悟研究室もプロジェクトに加わり、祭りの什器製作を協働することができた。

#### 【住民の視点】

- ・祭りに参加することで、「馬喰(ばくろう)」という地域の生活文化を知ることができ、市民の地元への愛着が高まる貴重な機会となった。
- ・学生が継続的に関わることで、一宮地区の地域づくりに対する期待感が高まった。
- ・製作合宿を通じては、地域住民と共に什器を製作することで、事業者が進める共助の推進や、地域住民のおせっかい力を引き出し、社会的な健康の促進に繋がった。



## 2.2.5 建築系高等教育機関と連携した建築ストックを活用した小さな拠点づくり ～阿用地域活性化プロジェクト～

### (1) プロジェクトおよびフィールドワークの活動内容

#### 1) 目的

大東町阿用地区では、地域自主組織による米作り体験や生物多様性改善の活動、ゲストハウス、ツーリズムといった取り組みにより、山・川・里を地域住民と訪れる人が一緒に守っていく活動が起こり始めている。学生がこの既存の取組に加わり、地域の潜在的な魅力や課題を発見し、それらを活かした将来的な地域ビジョンおよび建築的提案を行うことを目的とする。

#### 2) 活動方法・内容

地域住民へのヒアリング調査や既存建物や水路の実測調査、地域に根差した生態系や資源の調査を通じ、阿用地区の風景や特徴を描くドローイング作成や地域資源を活かした建築の設計提案を行う。

|             |                                                                              |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 令和 7 年 8 月  | 調査合宿(地域住民へのヒアリング、既存建物や水路の実測、地域に根差した生態系や資源の調査)<br>活動報告会(ドローイング、建築設計提案のお披露目)開催 |
| 令和 7 年 9 月  | 住民と協働で里山水源環境改善ワークショップ開催                                                      |
| 令和 7 年 10 月 | ローカルリーダーズミーティング in 雲南「えすこな里山」分科会登壇                                           |
| 令和 7 年 11 月 | 住民と協働で里山水源環境改善ワークショップ開催                                                      |
| 令和 8 年 2 月  | 活動報告会<br>次年度計画策定ミーティング                                                       |

#### 3) 活動の工夫点

定期的にオンラインミーティングを行うことで、コーディネーターや関係者と進捗状況を共有しながら準備を入念に行い、効果的に活動を進めることができた。

### (2) プロジェクトおよびフィールドワークの活動結果

・地区内の各種調査を通じて、阿用地区の現状を可視化し、地域資源を生かした里山の環境と共生する建築提案をした。提案に基づいて地域住民と意見交換を行い、今後の阿用地区のまちづくりについて関係者間の議論が活発化した。

・地域の課題であった水源環境の改善ワークショップを開催し、地域住民と協働で環境整備を行った。

・地区に必要な建築について関係者間で議論を重ね、関係人口の拠点となる施設の整備を進めていく方針が固まった。



### (3) プロジェクトおよびフィールドワークの成果

#### 【学生の観点】

- ・雲南の里山での暮らしや事業を知り、視野が広がった。
- ・授業の枠を超えた関わりが地域と生まれ、リピートしての訪問や、卒業制作の敷地として雲南を取り上げるなど、主体的な行動に繋がった。

#### 【住民の観点】

- ・継続的な研究室の学生の訪問によって、関係の輪が広がった。
- ・川島研究室の提案やディスカッションを通じて、既存の里山の取り組みの活動の視野が広がり、新たなビジョンの下地ができつつある。また、今後取り組んでいく地域側の主体が明確になり、事業として推進していく機運が高まった。
- ・ワークショップへの継続的な参画を通じ、里山における環境整備作業が大きく進んだ。

## 2.2.6 地域と若者が双方に学び合う持続可能なまちづくりに向けた高等教育機関との協働(随時募集型) ～「えすこに暮らす」プロジェクト～

### (1) プロジェクトおよびフィールドワークの活動内容

#### 1) 目的

第3次雲南市総合計画に掲げる「えすこな雲南市」実現のための柱「えすこに暮らす」の分野に対し、課題やポテンシャルの可視化が十分でない事業について住民へのヒアリングを通じた調査・分析を行う。本プロジェクトにおいては、今年度で設立5周年を迎える(公財)うんなんコミュニティ財団のこれまでの成果と課題、住民が期待するまちづくりについて洗い出し、今後の取組に活かしていくことを目指す。

#### 2) 活動方法・内容

(公財)うんなんコミュニティ財団が目指す「誰もが社会課題の解決・改善及び地域の価値創造に関わることができる状態」を実現するため、今後の戦略立案に必要な情報を収集、整理を行う。財団設立に携わった住民11名に対し、「財団に期待すること」「解決したい課題」「あると嬉しい仕組み」などについてインタビューを行い、アーカイブ化およびリーフレットを作成した。

|        |                     |
|--------|---------------------|
| 令和8年1月 | キックオフミーティング、事前学習    |
| 令和8年2月 | インタビュー合宿<br>意見交換会開催 |
| 令和8年3月 | リーフレット作成            |

#### 3) 活動の工夫点

プロジェクト設計前に担当教員が雲南市を訪問し、雲南市のまちづくりを知るとともに住民と交流する機会を設けた。雲南市の魅力や課題を体感してもらった上で、どのようなプロジェクトが効果的か丁寧に協議を重ねた。

プロジェクトにおいては、地域の希望する課題解決のテーマに加え、学生個人がそれぞれに雲南で探究したいテーマを設定し、地域への理解を深めることを目的に調査活動に取り組んだ。

### (2) プロジェクトおよびフィールドワークの活動結果

・地域に想いを寄せてきた住民たちへのインタビュー内容を記録したアーカイブを作成し、(公財)うんなんコミュニティ財団へ提供した。

・意見交換会を開催し、学生から示された調査結果について議論し、課題の本質や定義づけについて共通認識を醸成した。

・フィールドワークやインタビュー、意見交換会で得られた成果をリーフレットにまとめた。



### (3) プロジェクトおよびフィールドワークの成果

#### 【学生の視点】

・地域住民へのインタビューとアーカイブ化の作業の中において、自身が設定したテーマについても思考を深めることで、「地域課題の本質について探究する」ということを体感した。

#### 【地域の視点】

・すでに関係が構築されている状況において、住民の本音を引き出すことや課題の本質を洗い出すことに課題があったが、第3者として学生が介入することで、新たな気づきを得ることができた。

## 2.2.7 地域と若者が双方に学び合う持続可能なまちづくりに向けた高等教育機関との協働(随時募集型) ～「えすこに創る」プロジェクト～

### (1) プロジェクトおよびフィールドワークの活動内容

#### 1) 目的

第3次雲南市総合計画に掲げる「えすこな雲南市」実現のための柱「えすこに創る」の分野に対し、課題やポテンシャルの可視化が十分でない事業について住民へのヒアリングを通じた調査・分析を行う。

本プロジェクトでは、掛合町松笠地区をフィールドとし、「龍頭が滝などの地域資源を活用した観光施策(コンテンツ)の創出」をテーマに実施した。学生が地域の歴史・文化・自然環境を実地で体感し、一次情報に基づき課題を発見し解決策を提案する力を育成することを目的とするとともに、地域住民の皆様との対話・協働を通じて、継続的な関係構築を図ることを目指した。

#### 2) 活動方法・内容

松笠地区の観光資源は「有名であるかどうか」という視点で捉えるのではなく、「誰にとって、どのような文脈で価値となり得るのか」という観点から再定義することを重視し、地域住民や関係者、観光客へのインタビュー調査等を行った。

小規模であっても地域内に経済効果が生まれる具体的な仕組みを提案し、地域住民に提案発表を行い、施策の実行可能性や今後の展開について検討する。

|        |                        |
|--------|------------------------|
| 令和8年1月 | キックオフミーティング<br>事前学習    |
| 令和8年2月 | インタビュー調査合宿<br>成果報告会の開催 |

#### 3) 活動の工夫点

フィールドワーク中の行動計画は、すべて学生が立案した。地域住民は問題が発生した時にヒントを出す立場として学生の活動を支え、学生たちが提案・選択・決定を行う過程を重視した。

### (2) プロジェクトおよびフィールドワークの活動結果

・木次駅周辺から雲南市内、松笠地区にかけてグループごとに現地調査を実施し、地域住民や関係者の皆様を中心に50名以上へインタビューを行った。

・松笠地区の歴史、文化、自然環境を生かした2つの観光施策を提案した。



### (3) プロジェクトおよびフィールドワークの成果

- ・学生はフィールドベースの学習により地域理解力および課題設定能力を高めるとともに、チームでの協働や意思決定の重要性を実践的に学んだ。また、単なるアイデア提示に留まらず、費用試算や導線設計を含む具体的な観光施策案を創出することができた。
- ・参加学生にとって松笠地区は「第二の故郷」となり得る存在となり、再訪や継続的な関与を通じて、長期的な地域活性化に寄与する関係人口の創出が見込まれる。
- ・地域にとっては、観光導線や消費構造に関する新たな視点の提示、若者の外部視点による資源の再評価、関係人口創出の可能性という点で一定の意義があった。

## 2.2.8 地域と若者が双方に学び合う持続可能なまちづくりに向けた高等教育機関との協働(随時募集型) ～「えすこに育む」プロジェクト～

### (1) プロジェクトおよびフィールドワークの活動内容

#### 1) 目的

第3次雲南市総合計画に掲げる「えすこな雲南市」実現のための柱「えすこに暮らす」の分野に対し、課題やポテンシャルの可視化が十分でない事業について住民へのヒアリングを通じた調査・分析を行う。

雲南市は移住先として高い評価を得ているが、市内に勤務場所があるにもかかわらず、働く世代のニーズと住宅供給のミスマッチ等により市外居住を選択する層が一定数存在する。これは地域経済の循環やコミュニティ維持、防災力の低下にも繋がる地域課題であり、持続可能なまちづくりに向けた定住環境全体の再構築が求められている。

本プロジェクトでは、市外に居住する若者や地域事情に精通した不動産関連事業者、住民への聴き取りを通じ、定住を阻む要因や市場のギャップを把握することを目的とする。その上で、地域全体の住環境への提言を行うとともに、その先行モデルとして市職員の定住促進策や人事制度についても提案を行う。

#### 2) 活動方法・内容

本プロジェクトでは雲南市で就労しながら市外に居住している若手社会人に対し様々な観点から「なぜ市内に住まないのか／住めないのか」を丁寧に聞き取った。また、地元住民にも聴き取りを行い、生活上の制約や地域コミュニティとの関わりを整理した。加えて、不動産会社・建設関連事業者へのヒアリングにより、住宅市場側のボトルネックを把握し、二地域居起業家や移住起業家の方々への聞き取りを通じて、雲南市の魅力や移住意思決定のプロセスを整理した。これらの一次情報を比較分析し政策提言を取りまとめた。

|             |                     |
|-------------|---------------------|
| 令和7年 12月-1月 | キックオフミーティング<br>事前調査 |
| 令和8年 2月     | インタビュー調査合宿          |
| 令和8年 3月     | 成果報告会開催(オンライン)      |

#### 3) 活動の工夫点

プロジェクト設計前に担当教員が雲南市を訪問し、雲南市のまちづくりを知るとともに住民と交流する機会を設けた。雲南市の魅力や課題を体感してもらった上で、どのようなプロジェクトが効果的か丁寧に協議を重ねた。

### (2) プロジェクトおよびフィールドワークの活動結果

・市外居住の方々を市内居住へ促すための「現実的に効くレバー」を抽出し、①住宅供給・情報のミスマッチ解消(民間との連携強化、供給・仲介・情報提供の改善等)と、②職員が無理なく暮らし続けられる



制度的支援を組み合わせた政策提言を取りまとめた。

・雲南市の地域課題解決の柱である自主組織で次世代リーダー発掘・育成が急務との重要課題に関して、人口定着と関連付け、定住促進と担い手形成を同時に進める施策を提案した。

・他自治体の先行事例も参照しつつ実装可能性を意識した提案とし、最終的に調査結果・分析・提言を調査報告書として整理し、報告会等を通じて関係者と共有した。



### (3) プロジェクトおよびフィールドワークの成果

本プロジェクトは国家公務員を志望する学生により行われた。過疎地域におけるまちづくりの事例やそれに携わる地域住民と交流し、現場を知ることによって、行政体制のあり方について考えるきっかけとなった。また、住民へのヒアリングや課題の分析、提案することを通じて、市町村における政策立案のプロセスを学ぶことができた。

地域にとっては、人口減少の重要な課題ではあるが扱うことが難しい「居住地の選択」について、学生が第3者として介入することで、若者の声を拾い上げることができた。



## 2.3 地域の成果と今後の展開

### 2.3.1 目標とする地域の成果に対する評価

- ・学生の活動をきっかけとして、多様な主体(地元企業、地域おこし協力隊、NPO 法人等)による地域ビジョンについての議論が活発になった。
- ・地域の課題や目指す将来像が共有され、計画として明文化された。
- ・地域の課題を深堀することを通じて、自分ごととして活動に取り組む学生が現れた。
- ・学生の活動をきっかけとして、地域の課題に取り組む役割を担う主体が明確になった。(例:地域の事業者が協働で関係人口拠点整備を検討する)
- ・来年度以降も継続して連携していく関係性を構築することができた。(例:早稲田大学と自主組織、事業者等と協働でエリアビジョンの策定に取り組む)
- ・地域での学びは自ら考え判断する力や失敗経験も前向きに活かす力、臨機応変な対応力が求められ、学生の新たな気づきや成長につながっている。

| 目標とする地域の成果(実施計画書)                                                                          |   | 達成状況・結果評価                                                                 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------|---|---------------------------------------------------------------------------|
| プロジェクト①課題解決人材育成のための地域系高等教育機関との協働                                                           |   |                                                                           |
| お祭りの担い手が60～70代であることから、学生たちが実行委員会に参加し若者目線でアイデアを提案することで、これまでにない発想で賑わい創出に向けた新たな企画を実施することができる。 | ○ | 学生により、すごろくや縁日などこれまでになかった多世代の交流企画を実施することができた。                              |
| 学生の滞在拠点の環境整備や住民参加型のイベントの企画を通じて、学生の活動についての認知度向上や、学生と住民の交流促進を図る。                             | ◎ | 学生による5回のイベント参画をとおして、学生の認知度向上および交流を促進することができた。                             |
| 地域が学生の意見を柔軟に取り入れ、若者の受け入れに対して寛容になることで、地域に住む若者や女性・子育て世代も地域活動へ参画しやすい機運が醸成される。                 | ○ | 学生による若者や子育て世代をターゲットとした企画を目当てに、多くの学生や親子連れの訪問があり、特に「うみのいえ縁日」は想定以上の60名が参加した。 |
| プロジェクト② 建築系の高等教育機関と連携した建築ストックを活用した小さな拠点づくり                                                 |   |                                                                           |
| 雲南市内で発生する空き家課題に対し、建築系学生の特技を活かしたドローイングやものづくりにより、地域の潜在的なポテンシャルを可視化する。                        | ○ | 学生の専門的な知見や技術を活かして地域の潜在的なポテンシャルが可視化され、地域住民へも共有され、今後の地域づくりへの期待が高まった。        |
| 学生と地域との交流を通じ、地域での既往の取り組みが推進する。                                                             | ◎ | 学生の活動をきっかけとして既往の取組が推進するとともに、今後取り組んでいく地域側の主体が明確になり、事業として推進していく機運が高まった。     |

| プロジェクト③ 地域と若者が双方に学び合う持続可能なまちづくりに向けた高等教育機関との協働                                                                  |   |                                                                               |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|-------------------------------------------------------------------------------|
| 本市の第 3 次雲南市総合計画で掲げる「えすこな雲南市」実現のための3つの柱「暮らす」「育む」「創る」のそれぞれの分野に対し、課題やポテンシャルの可視化が十分でない事業について住民へのヒアリングを通じた調査・分析を行う。 | ◎ | これまで地域の力だけでは課題やポテンシャルの可視化が難しかった取組に学生が介入することで、多くの情報が引き出され、今後の方針に生かせる情報や提案があった。 |
| 地域住民の視点では難しかった活動に学生が着手することで、既存の取組をより推進していくきっかけとなる。                                                             | ○ | 学生からの提案を受けて、地域が取り組んでいこうとする機運が高まった。                                            |
| 全体                                                                                                             |   |                                                                               |
| フィールドワークを下記の日数・人数により実施する。<br>・実施日数 79日<br>・参加人数 39 人                                                           | ◎ | フィールドワークを下記の日数・人数により実施した。<br>・実施日数 82 日<br>・参加人数 63 人                         |
| 個人的な定期訪問約 10%(39 人中 4 人)                                                                                       | ○ | 個人的な定期訪問約8%<br>(63人中5人)                                                       |

### 2.3.2 今後の展開

・学生の調査により地域における個別具体的な課題やポテンシャルが可視化され、効果的な施策の策定につなげることができた。

・プロジェクト①の島根大学との連携は、今後大学と事業所との関係の中で継続していくとともに、参加学生は雲南コミュニティキャンパスへの接続を図る。

・プロジェクト②のうち、「木次本町通りエリアビジョンプロジェクト」は、来年度以降も本制度を活用してエリアビジョン策定に向けての連携を予定している。「木次町三新塔地区天野館文化財登録に向けた調査プロジェクト」は、図面の作成や文化的価値の整理などの目標は達成したため、今後の連携方法について関係者間で協議を続ける。「建築三刀屋町古城地区生活文化継承プロジェクト」は、今後大学と事業所との関係の中で継続していく。「阿用活性化プロジェクト」は、来年度以降も本制度を活用して地区内の関係人口拠点の整備において連携を予定している。

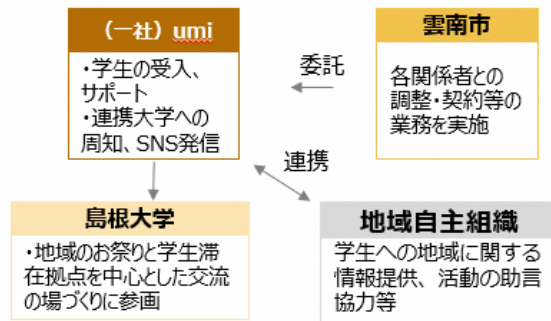
・プロジェクト③のうち「えすこに暮らすプロジェクト」は、今後の連携方法について関係者間で協議を続ける。「えすこに創るプロジェクト」は、雲南市のスペシャルチャレンジ制度を活用しての活動継続について関係者間で協議を続ける。「えすこに育むプロジェクト」は、今後の連携方法について関係者間で協議を続ける。

・今年度参加者のうち 5 名の学生は、個人的な関係継続を希望しており、今後の関係人口や担い手となりうる人材として、フォローを継続していく。

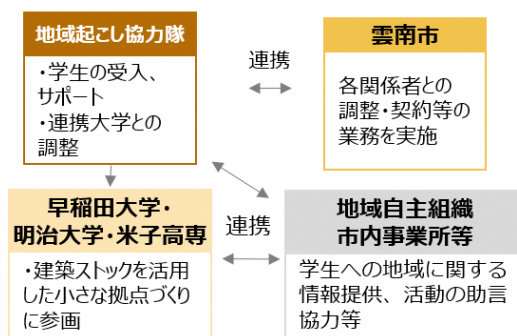
### 3. プロジェクトの実施体制

#### 3.1 プロジェクト体制の全体像

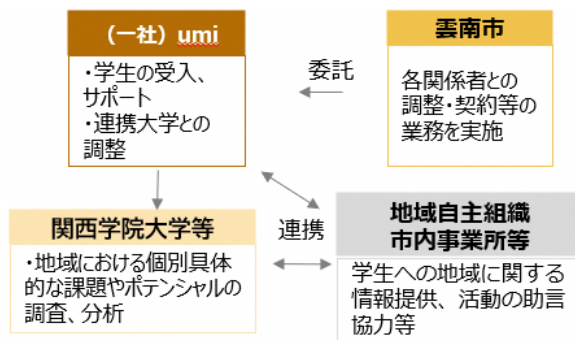
プロジェクト①課題解決人材育成のための地域系高等教育機関との協働



プロジェクト②建築系の高等教育機関と連携した建築ストックを活用した小さな拠点づくり



プロジェクト③地域と若者が双方に学び合う持続可能なまちづくりに向けた高等教育機関との協働(その他、随時募集)



#### 3.2 プロジェクト体制内の役割

プロジェクト① 課題解決人材育成のための地域系高等教育機関との協働

| 所属/氏名         | 本プロジェクトにおける役割                          |
|---------------|----------------------------------------|
| 自治体           |                                        |
| 雲南市政策推進課 山岸美貴 | 各関係者との調整・契約等の業務<br>学生・教員の滞在に係る費用の管理・支出 |

|                          |                            |
|--------------------------|----------------------------|
| 大学高等教育機関学生               |                            |
| 島根大学地域未来協創本部<br>准教授 丸山実子 | 学生の指導                      |
| コーディネーター                 |                            |
| 一般社団法人 umi<br>代表理事 山下 実里 | 学生の受け入れ、活動のサポート            |
| 三新塔あきば協議会<br>事務局長 新 三千雄  | 地域の情報提供、活動への助言             |
| プロジェクト参加学生               |                            |
| 島根大学 8名                  | 地域のお祭りと学生滞在拠点を中心とした交流の場づくり |

プロジェクト②-1 建築系高等教育機関と連携した建築ストックを活用した小さな拠点づくり  
～木次本町通りエリアビジョンプロジェクト～

| 所属/氏名                               | 本プロジェクトにおける役割       |
|-------------------------------------|---------------------|
| 自治体                                 |                     |
| 雲南市政策推進課 山岸美貴                       | 各関係者との調整・契約等の業務     |
| 大学高等教育機関                            |                     |
| 早稲田大学理工学術院創造理<br>工学部建築学科<br>教授 田中智之 | 学生の指導               |
| コーディネーター                            |                     |
| 雲南市地域おこし協力隊<br>小堀 祥仁                | 学生の受け入れ、活動のサポート     |
| 三新塔あきば協議会<br>事務局長 新 三千雄             | 地域の情報提供、活動への助言      |
| プロジェクト参加学生                          |                     |
| 早稲田大学 8名                            | 建築ストックを活用した小さな拠点づくり |

プロジェクト②-2 建築系高等教育機関と連携した建築ストックを活用した小さな拠点づくり  
～木次町三新塔地区天野館文化財登録に向けた調査プロジェクト～

| 所属/氏名                 | 本プロジェクトにおける役割   |
|-----------------------|-----------------|
| 自治体                   |                 |
| 雲南市政策推進課 山岸美貴         | 各関係者との調整・契約等の業務 |
| 雲南市文化財課 春日瞳           | 活動の助言、協力        |
| 大学高等教育機関              |                 |
| 国立米子工業高等専門学校総<br>合工学科 | 学生の指導           |

|                         |                                   |
|-------------------------|-----------------------------------|
| 講師 荒木菜見子                |                                   |
| コーディネーター                |                                   |
| 雲南市地域おこし協力隊<br>小堀 祥仁    | 学生の受け入れ、活動のサポート                   |
| 三新塔あきば協議会<br>事務局長 新 三千雄 | 学生の受け入れ、活動のサポート<br>地域の情報提供、活動への助言 |
| 有限会社天野館<br>代表取締役 天野裕二   | 学生の受け入れ、活動のサポート<br>地域の情報提供、活動への助言 |
| プロジェクト参加学生              |                                   |
| 国立米子工業高等専門学校<br>9名      | 建築ストックを活用した小さな拠点づくり               |

プロジェクト②-3 建築系高等教育機関と連携した建築ストックを活用した小さな拠点づくり  
～建築三刀屋町古城地区生活文化継承プロジェクト～

| 所属/氏名                        | 本プロジェクトにおける役割                     |
|------------------------------|-----------------------------------|
| 自治体                          |                                   |
| 雲南市政策推進課 山岸美貴                | 各関係者との調整・契約等の業務                   |
| 大学高等教育機関                     |                                   |
| 国立米子工業高等専門学校総合工学科<br>講師 川中彰平 | 学生の指導                             |
| 芝浦工業大学建築学部<br>教授 山代悟         | 学生の指導                             |
| コーディネーター                     |                                   |
| 雲南市地域おこし協力隊<br>小堀 祥仁         | 学生の受け入れ、活動のサポート                   |
| 株式会社 CNC 池山翔太                | 学生の受け入れ、活動のサポート<br>地域の情報提供、活動への助言 |
| 一宮自主連合会<br>陶山 孝樹             | 学生の受け入れ、活動のサポート<br>地域の情報提供、活動への助言 |
| プロジェクト参加学生                   |                                   |
| 国立米子工業高等専門学校総合工学科 11名        | 建築ストックを活用した小さな拠点づくり               |
| 芝浦工業大学建築学部 3名                | 建築ストックを活用した小さな拠点づくり               |

プロジェクト②-4 建築系高等教育機関と連携した建築ストックを活用した小さな拠点づくり  
～阿用地域活性化プロジェクト～

| 所属/氏名                       | 本プロジェクトにおける役割                     |
|-----------------------------|-----------------------------------|
| 自治体                         |                                   |
| 雲南市政策推進課 山岸美貴               | 各関係者との調整・契約等の業務                   |
| 大学高等教育機関                    |                                   |
| 明治大学理工学部建築学科<br>准教授 川島範久    | 学生の指導                             |
| コーディネーター                    |                                   |
| 雲南市地域おこし協力隊<br>小堀 祥仁        | 学生の受け入れ、活動のサポート                   |
| 阿用地区振興協議会<br>事務局長・三原義之      | 学生の受け入れ、活動のサポート<br>地域の情報提供、活動への助言 |
| NPO 法人 おっちらぼ<br>代表理事 小俣 健三郎 | 学生の受け入れ、活動のサポート<br>地域の情報提供、活動への助言 |
| プロジェクト参加学生                  |                                   |
| 明治大学 5名                     | 建築ストックを活用した小さな拠点づくり               |

プロジェクト③-1 地域と若者が双方に学び合う持続可能なまちづくりに向けた高等教育機関との協働  
(随時募集型)～「えすこに暮らす」プロジェクト～

| 所属/氏名                             | 本プロジェクトにおける役割                     |
|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 自治体                               |                                   |
| 雲南市政策推進課 山岸美貴                     | 各関係者との調整・契約等の業務                   |
| 大学高等教育機関                          |                                   |
| 学校法人関西学院大学 HoL+<br>顧問 木本 浩一       | 学生の指導                             |
| コーディネーター                          |                                   |
| 一般社団法人 umi<br>代表理事 山下 実里          | 学生の受け入れ、活動のサポート                   |
| 公益財団法人うんなんコミュニ<br>ティ財団<br>理事 石原尚美 | 学生の受け入れ、活動のサポート<br>地域の情報提供、活動への助言 |
| プロジェクト参加学生                        |                                   |
| 関西学院大学 2名                         | 地域における個別具体的な課題やポテンシャルの調査・分析       |
| 新潟工科大学 3名                         | 地域における個別具体的な課題やポテンシャルの調査・分析       |

プロジェクト③-2 地域と若者が双方に学び合う持続可能なまちづくりに向けた高等教育機関との協働  
(随時募集型)～「えすこに創る」プロジェクト～

| 所属/氏名                       | 本プロジェクトにおける役割                     |
|-----------------------------|-----------------------------------|
| 自治体                         |                                   |
| 雲南市政策推進課 山岸美貴               | 各関係者との調整・契約等の業務                   |
| 大学高等教育機関                    |                                   |
| 関西大学事業推進グループ<br>非常勤講師 鍛島 宗範 | 学生の指導                             |
| コーディネーター                    |                                   |
| 一般社団法人 umi<br>代表理事 山下 実里    | 学生の受け入れ、活動のサポート                   |
| 松笠振興協議会<br>事務局長 石橋 生久美      | 学生の受け入れ、活動のサポート<br>地域の情報提供、活動への助言 |
| プロジェクト参加学生                  |                                   |
| 関西大学 8名                     | 地域における個別具体的な課題やポテンシャルの調査・分析       |

プロジェクト③-3 地域と若者が双方に学び合う持続可能なまちづくりに向けた高等教育機関との協働  
(随時募集型)～「えすこに育む」プロジェクト～

| 所属/氏名                            | 本プロジェクトにおける役割                   |
|----------------------------------|---------------------------------|
| 自治体                              |                                 |
| 雲南市政策推進課 山岸美貴                    | 各関係者との調整・契約等の業務<br>学生の受け入れ・サポート |
| 雲南市人事課 松井英樹                      | 地域の情報提供                         |
| 大学高等教育機関                         |                                 |
| 専修大学エクステンションセン<br>ター<br>講師 石川 秀樹 | 学生の指導                           |
| コーディネーター                         |                                 |
| 一般社団法人 umi<br>代表理事 山下 実里         | 学生の受け入れ、活動のサポート                 |
| プロジェクト参加学生                       |                                 |
| 専修大学 6名                          | 地域における個別具体的な課題やポテンシャルの調査・分析     |

## 4. スケジュール

### プロジェクト① 課題解決人材育成のための地域系高等教育機関との協働

| 実施時期       | 活動実績                                                                                                                                                      |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2025年 7 月  | 7/20-21 イベント開催補助(2 日間／1 名参加)                                                                                                                              |
| 2025年 8 月  | 8/15 キックオフミーティング(1 日間／8 名参加)<br>8/18-22 住民交流イベント準備(5 日間／2名参加)<br>8/26-27 住民交流イベント準備(2日間／1 名参加)                                                            |
| 2025年 9 月  | 9/2 高校文化祭への出店(1 日間／3 名参加)<br>9/4 住民交流イベント準備(1 日間／2 名参加)<br>9/9 祭り実行委員会参加(1 日間／3 名参加)<br>9/18 住民交流イベント準備(1 日間／2 名参加)<br>9/21 住民交流イベント準備(1 日間／4 名参加)        |
| 2025年10月   | 10/11-12 秋の賑わい市開催(2 日間／6 名参加)                                                                                                                             |
| 2025年 11 月 | 11/3 振り返りミーティング(1 日間／6名参加)<br>11/9 地域の文化祭運営補助(1 日間／3 名参加)                                                                                                 |
| 2025年12月   | 12/8 住民交流イベント準備(1 日間／1 名参加)<br>12/15 住民交流イベント準備(1 日間／2 名参加)<br>12/22 住民交流イベント準備(1 日間／1 名参加)<br>12/24 住民交流イベント準備(1 日間／2 名参加)<br>12/27 住民交流イベント開催(1 日間／2 名) |
| 2026年 1 月  | 1/19 地域への活動報告(1 日間／1 名)                                                                                                                                   |

※このほか、大学においても学生が自主的にイベント準備を実施した。

### プロジェクト②-1 建築系高等教育機関と連携した建築ストックを活用した小さな拠点づくり ～木次本町通りエリアビジョンプロジェクト～

| 実施時期      | 活動実績                                                           |
|-----------|----------------------------------------------------------------|
| 2025年 9 月 | 9/26-29 木次本町通り建物状況調査<br>エリアプラットフォーム設立準備ワークショップ<br>(4 日間／6 名参加) |
| 2026年 1 月 | 1/16-20 建物状況調査<br>エリアプラットフォーム設立準備ワークショップ<br>(5日間／6 名参加)        |

※このほか、10 月～1 月に隔週で、学生とコーディネーターによるオンラインミーティングを実施した。



プロジェクト②-2 建築系高等教育機関と連携した建築ストックを活用した小さな拠点づくり  
～木次町三新塔地区天野館文化財登録に向けた調査プロジェクト～

| 実施時期    | 活動実績                                       |
|---------|--------------------------------------------|
| 2025年9月 | 9/8-10 木次本町通りフィールドワーク、建物測量調査<br>(3日間／9名参加) |
| 2026年2月 | 2/25-26 雲南市内フィールドワーク、活動報告会開催<br>(2日間／4名参加) |

※このほか 10～2 月は図面作成に取り組んだほか、教員、学生、コーディネーターによる月1回のオンラインミーティングを実施した。

プロジェクト②-3 建築系高等教育機関と連携した建築ストックを活用した小さな拠点づくり  
～建築三刀屋町古城地区生活文化継承プロジェクト～

| 実施時期        | 活動実績                                             |
|-------------|--------------------------------------------------|
| 2025年 7 月   | 7/20-21 建物状況調査、秋のイベント提案に向けたミーティング<br>(2日間／6 名参加) |
| 2025年 9 月   | 9/20-21 什器製作作業(2日間／11 名参加)                       |
| 2025 年 11 月 | 11/3-4 祭り準備、運営、振り返り                              |

※このほか7～10月に隔週で、教員、学生、コーディネーターによるオンラインミーティングを実施した。

プロジェクト②-4 建築系高等教育機関と連携した建築ストックを活用した小さな拠点づくり  
～阿用地域活性化プロジェクト～

| 実施時期       | 活動実績                                              |
|------------|---------------------------------------------------|
| 2025年 8 月  | 8/6-8 地区内フィールドワーク、活動報告会開催<br>(3日間／4名参加)           |
| 2025年 9 月  | 9/24-27 水源環境改善ワークショップ開催(4日間／3名参加)                 |
| 2025年 10 月 | 10/7-9 ローカルリーダーズミーティング登壇(3 日間／2 名参加)              |
| 2025年 11 月 | 11/20-25 地区内フィールドワーク<br>水源環境改善ワークショップ開催(6日間／4名参加) |
| 2026年 2 月  | 2/25-28 地区内フィールドワーク、活動報告会開催<br>(4 日間／5 名参加)       |

※このほか8～2月に不定期で、関係者によるオンラインミーティングを実施した。

プロジェクト③-1 地域と若者が双方に学び合う持続可能なまちづくりに向けた高等教育機関との協働  
(随時募集型)～「えすこに暮らす」プロジェクト～

| 実施時期      | 活動実績                                                 |
|-----------|------------------------------------------------------|
| 2026年 2 月 | 2/15-21 市内フィールドワーク、インタビュー調査<br>意見交換会開催<br>(7日間／5名参加) |

※このほか、1月に事前学習会を開催。

プロジェクト③-2 地域と若者が双方に学び合う持続可能なまちづくりに向けた高等教育機関との協働  
(随時募集型)～「えすこに創る」プロジェクト～

| 実施時期      | 活動実績                                                 |
|-----------|------------------------------------------------------|
| 2026年 2 月 | 2/16-20 市内フィールドワーク、インタビュー調査<br>成果報告会開催<br>(5日間／8名参加) |

※このほか、1月に事前学習会を開催。

プロジェクト③-3 地域と若者が双方に学び合う持続可能なまちづくりに向けた高等教育機関との協働  
(随時募集型)～「えすこに育む」プロジェクト～

| 実施時期      | 活動実績                                      |
|-----------|-------------------------------------------|
| 2026年 2 月 | 2/10-14 市内フィールドワーク、インタビュー調査<br>(5日間／6名参加) |

※このほか、1月に事前学習会、3月に成果報告会を開催。

## 5. プロジェクトを通じて得られた効果

---

### 5.1 地域における効果

#### 5.1.1 プロジェクト前後の変化

・域外の大学生の活動をきっかけとして、地域の課題に取り組んでいく役割を担う地域側の主体が明確になった。特に建築ストックを活用した小さな拠点づくり(阿用地区)のプロジェクトにおいては、学生の視点による新たな提案(地形を活かした地域拠点の設計、ビオトープ整備による自然との共生など)を通じて里山における活動デザインの視野が広がり、今後の地域ビジョンについての議論が活発化した。また、目指す姿を共有することで、地域事業者や社会起業家が長期的な計画における実行の主体を担っていくこととなった。

・地域の方がプロジェクト外でおすすめスポットに案内したり、当初計画していなかった交流会が開催されたりするなど、地域側が学生と積極的に交流しようとする姿が見られた。

#### 5.1.2 得られた示唆

・域外の大学生が地域のフィールドワークを通じて新たな提案をする姿に刺激を受け、地域の大人が「地域を担うカッコいい姿」としてロールモデルを示す場面が多く見られた。学生の活動により、地域にこれからのまちづくりへの期待感や学生に対する感謝の気持ちが生まれることで、地域内の主体性を引き出し、学生の手本となる好循環につながっている。

### 5.2 自治体における効果

#### 5.2.1 プロジェクト前後の変化

・プロジェクト終了後、学生から「雲南のまちづくりについて、個人的に学びにきたい」といった要望を受けたことで、域外の大学生が将来の関係人口や新たな担い手になりうる可能性を感じる事ができた。

・域外の大学生の活動により、大学の知見や分析手法、技術を取り入れることで、データや仮説検証に基づく政策形成につながった。

#### 5.2.2 得られた示唆

・域外の大学生の活動の受け入れにあたり、学生にとって有意義な学びとなるよう活動を仕組む過程を経ることで、地域課題解決に対してより多様な主体を巻き込んで取り組んでいこうとする意識を持つことにつながった。

・域外の大学生に役割を任せることで雲南市に貢献しようとする思いと愛着を育むことにつながる。そのためにはフィールドワーク実施前の事前学習の実施や、フィールドワーク中により多くの住民との交流を仕組むことが重要である。

### 5.3 大学における効果

#### 5.3.1 プロジェクト前後の変化

・今年度のプロジェクトを通じて、地域の受け入れ体制の手厚さや地域から提供される学びの豊富さ、

フィールドワーク後の学生の変容を実感したことで、学生のフィールドワーク先として地域と長期的な関係を築いていく意向を示された。

・現地フィールドワークを通じて、現地の実践でしか得られない気づきがあることを実感するとともに、地域が抱える課題をより深く理解することができた。特に、地域において様々な社会課題に取り組んでいる人々と出会い、交流する機会を得たことで、今後も地域と連携した取組をしていこうという意欲が高まった。

### 5.3.2 得られた示唆

・長年大学連携に取り組んできたことによる学生の受け入れ体制や、地域自主組織をはじめ地域の起業家等による挑戦を応援する文化が、域外の大学生のフィールドワーク先として選ばれる要素の1つである。

・大学教員が現地で活動に参加することは、プロジェクトの成功や継続した関係構築において非常に重要である。現地フィールドワークでしか得られない地域住民との出会いを多く得た教員ほど、継続した取組を実践していこうという意欲が高まった。

## 5.4 学生における効果

### 5.4.1 プロジェクト前後の変化

・事前学習により仮説を設定し、フィールドワークにおいて地域住民へインタビューを実施した。その結果、地域課題は単純なものではなく、様々な条件が絡み合った複雑なものであるということを具体的に理解できるようになった。

・課題の解像度が上がることによって、地域には多様な主体がそれぞれ役割をになっていること、その中において若者として何が求められているかを理解し、自身の特性を生かしどのように貢献できるか考え、行動することができた。

・地域の課題を自分ごととして活動に取り組む域外の大学生が現れ、フィールドワーク実施後も個人で雲南を訪問する意向を示した。

### 5.4.2 得られた示唆

・長年大学連携に取り組んできたことによる学生の受け入れ体制や、地域自主組織をはじめ地域の起業家等による挑戦を応援する文化により、学生の提案が実現に向かいやすいことが、域外の大学生が実践するフィールドとして選ぶ要素の1つである。

令和 7 年度大学等と地域が連携して取り組む地域課題解決プロジェクト(ふるさとミライカレッジ)  
成果報告書

長年培ってきた学びのフィールドを活かした人材還流プロジェクト

---

令和8年3月13 日

島根県雲南市

---